

令和4年度富山県委託事業

はつらつ公民館学び支援事業 活動報告書



富山県公民館連合会

は じ め に

私たちが住む「ふるさと富山」は、3,000m級の立山連峰と、水深1,000m以上を誇る富山湾を有し、雄大で美しい自然に恵まれています。また、大伴家持がこの越中で多くの歌を詠むなど、歴史や文化の香る富山県は誇り高きふるさとともいえます。

人は、生まれ育った地域の自然や歴史、文化などを知ることによって、ふるさとへの愛着と誇り、感謝の気持ちを抱きます。そこで、幼い頃から地元の自然や文化に親しみ、大切にする体験は、豊かな人間性を育むとともに、想像力を伸ばし、探究心を育てるなど、人格の形成に大きな効果が期待できるものと考えます。

富山県公民館連合会では、平成20年度から、将来を担う子供たちがふるさとに育まれて健やかに成長することを願い、公民館を拠点に子供たちのふるさとの学びや身近な自然体験活動を推進する事業を実施してきました。また、中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月）の中で、「公民館など社会教育施設には、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化することが求められている」と示されていることを受け、令和元年度から、人生100年時代に向け、公民館を拠点とした地域課題の解決に向けた「学び」のモデル的な活動の支援を加え、「はつらつ公民館学び支援事業」を実施しています。

本年度の報告書には、事業実施公民館等が新型コロナウイルス感染症に配慮しながらも、工夫して企画・運営された活動や、地域の実態に応じた人づくり、地域づくりにつながる実践等が紹介されています。これらの実践事例に基づき、公民館が住民の「つどう・まなぶ・むすぶ」場となり、地域の絆づくりの拠点となるよう、一層の活動推進を願っています。

終わりに、本事業の実施ならびに活動報告書の作成にあたり、ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝申しあげます。

令和5年3月

富山県公民館連合会

会 長 中 西 彰

目 次

型	事業実施公民館等		ページ	
地域振興型	高岡市	福岡公民館	1	
		川原公民館	3	
	滑川市	北加積地区公民館	5	
	砺波市	梅檀山公民館	7	
	南砺市	井口地域づくり協議会	9	
		福野北部地域づくり協議会	11	
		南山田地域づくり協議会	13	
	体験交流型	富山市	奥田北公民館	15
		射水市	浅井コミュニティセンター	16
魚津市		上中島公民館	17	
氷見市		女良公民館	18	
		宇波公民館	19	
滑川市		滑川東地区公民館	20	
黒部市		生涯学習文化スクエア	21	
		三日市公民館	22	
		若栗公民館	23	
		東布施公民館	24	
	下立公民館	25		
	浦山公民館	26		

型	事業実施公民館等		ページ
体験交流型	砺波市	青島公民館	27
	南砺市	北山田地域づくり協議会	28
		西太美地域づくり協議会	29
		石黒地域づくり協議会	30
		東太美地域づくり協議会	31
		北野地域づくり協議会	32
		広瀬館地域づくり協議会	33
	舟橋村	舟橋村公民館	34
	上市町	宮川公民館	35
	入善町	飯野公民館	36
		横山公民館	37
		上原公民館	38

※体験交流型では、各公民館の活動で顕著なものを報告書の右上に表で示しました。

地域振興型

【地域振興型】

高岡市立福岡公民館

◆地域の概要

本地域は旧福岡町の中心部に位置し、江戸時代に加賀藩の参勤交代のルートとして整備された往還、旧北陸街道に面する住宅地です。地域の伝統文化としては、江戸時代から続く「福岡町つくりもんまつり」や「越中福岡の菅笠制作技術」、「雅楽」などが挙げられます。

◆地域課題

本地域では、伝統文化の担い手減少が課題となっています。その背景には、若年層の関心が薄いことが挙げられることから、まずは伝統文化等を体感し理解を深めたり、その魅力を発信したりする場を設けることが必要だと考えられます。

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
4月16日(土) 4月23日(土) 4月28日(木) 5月10日(土) 5月15日(土)	福岡地区内	地域と子供たちをつなぐ ・お仕事体験「だがしやチャレンジ」	110名
6月4日(土) 9月23日(祝) 11月19日(土) 2月12日(日)	福岡公民館 福岡地区内	地域の魅力再発見のための学習会 ・「竹笛をつくろう」 ・「つくりもんをつくろう」 ・「スゲでつくろう～干支置物～」 ・「冬の生き物の生活観察会」	107名
7月12日(火)	福岡公民館	地域の魅力を発信するための学習会 ・「スマホ教室 (Zoom)」	14名
6月23日(火) 7月30日(土) 11月25日(金) 12月5日(月) 2月12日(日) 2月13日(月) 2月19日(日)	福岡公民館	地域の魅力発信 ～他県公民館とのオンライン交流会～ ・「ときどきドキドキ全国子どもネットワーク」 ・「オンラインでつなぐ全国ご当地健康体操」 ・「にっぽん Zoom トラベル紀行」 ・「MIRU×SHIRU マチ旅。」	103名

◆事業の様子

☆ 地域と子供たちをつなぐ

本事業の導入として、子供たちが地域や公民館活動に目が向くような活動が必要だと考え、「だがしやチャレンジ」を行いました。本活動は「子供たちのやってみたいを叶えます」を合言葉に、駄菓子屋運営に必要なことを地域の大人から学びながら、子供たちは自分たちのアイデアを取り入れた出店体験を行いました。

☆ 地域の魅力発見のための学習会

地域の伝統文化等の学習会を4回開催しました。

- ・「竹笛をつくろう」では雅楽や能、お祭りで使う竹笛を制作している笛師から、楽器の解説とともに音色を聴かせていただきました。また篠竹を使った、うぐいす笛の制作体験も行いました。
- ・「福岡町つくりもんまつり」が3年ぶりに開催されました。祭り初日には、親子を対象としたつくりもん制作体験を行い、その作品を祭りで展示しました。
- ・福岡町地域特産のスゲを使い、干支置物づくりを体験しました。
- ・地域を流れる小矢部川に親しみをもち、川の環境を大切にする心を育もうと「冬の生き物の生活観察会」を開催しました。サケ稚魚2万匹を放流したり、野鳥や植物観察を行いました。

☆ 地域の魅力発信のための学習会

地域の魅力を地域内外に発信するため、Web 会議システム Zoom（ズーム）の使い方を学習しました。1人1台 iPad を使い、Zoom の機能を楽しみながら体験しました。

☆ 地域の魅力発信

遠方にある公民館と福岡公民館を Zoom でつなぎ、地域の魅力を紹介し合うオンライン交流会を6回開催し、9県14公民館・施設に発信しました。

- ・「ときどきドキドキ全国子どもネットワーク」では、クイズ形式で方言や郷土食に関することを紹介したり、越中福岡の菅笠音頭を披露しました。また、サケ稚魚放流の様子を小矢部川から生中継しました。
- ・「オンラインでつなぐ全国ご当地健康体操」では、健康たかおか10か条体操を披露しました。
- ・「につぼん Zoom トラベル紀行」では、公民館に居ながら旅行気分を味わっていただこうと、互いの地域の観光や歴史、共通点を紹介し合いました。本活動の醍醐味であるお土産交換では、自治体の観光パンフレットの他、スゲで作ったウサギの干支置物をお贈りしました。
- ・「MIRU×SHIRU マチ旅。」では、各地の公民館をオンラインで訪れ、地域住民だからこそ知る地元の深い情報を「観て」「知って」楽しんでいただこうと開催しました。当館からは、地元の民間雅楽団体「洋遊会」による生演奏や楽器紹介等を行いました。交流先とのお土産交換では、白エビせんべい、昆布蒲鉾などをお贈りしました。



◆事業の成果と課題

- ・「だがしやチャレンジ」を本事業の導入として行ったことが、地域や公民館活動に目が向くきっかけとなり、学習会への関心の高まりにもつながりました。
- ・地域を学び、遠方にいる人にその魅力を発信することで、伝える力のスキルアップを図りました。また「何もない」と言われがちな本地域の魅力を、住民自身が感じるきっかけともなりました。
- ・より幅広い年代が地域への関心を高められるよう、伝統文化の継承者とともに、本活動を発展させていきたいと考えています。

【地域振興型】

高岡市立川原公民館

◆地域の概要

- ・校区は、市街地の中心に位置し、千保川流域に発達した商工業の中心地域である。また、工業地域として栄えた頃の史跡が数多く残っており、伝統工芸に携わる人々も多い。
- ・伝統的文化が伝承されており、川巴良諏訪神社の春季例大祭では7つの町内で母衣武者の展示を行っている。また、御印祭の前夜祭に行われる弥栄節踊りに川原小学校の児童が参加している。
- ・校区住民は、社会教育や学校教育に深い理解と熱意があり協力的である。公民館には26のサークルがあり、どのサークルも活発に活動をしている。また、児童の安全確保のために「川原っ子安全パトロール隊」を中心に積極的に活動している。

◆地域課題

川原地区は、地域住民の希望と心の拠り所でもあった小学校が統廃合により、その跡地利用が問題となっている。地域を支えた公共施設がなくなること、また、一方では高齢化や空洞化に伴うまち中の過疎化にむけて、住民は地域への愛着やまちの将来への希望を失いつつある。地域の高齢化や魅力発信など地域課題をテーマとした実践的な学習会や現地調査、グループワークなどを通じて地域振興の活動につなげていく。

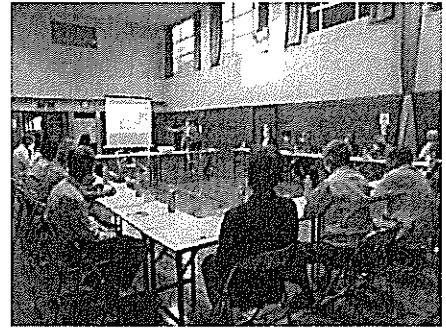
◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
6月24日(金)	川原公民館	地域の魅力再発見のための学習会 ・川原地域に伝わる川巴良諏訪神社由来の母衣武者について	40名
9月25日(日)	川原公民館	母衣武者展示イベント	約600名
11月1日(火)	川原公民館	学習及びイベント実施結果をもとに母衣武者のパンフレットを作成、配布	約1100名

◆事業の様子

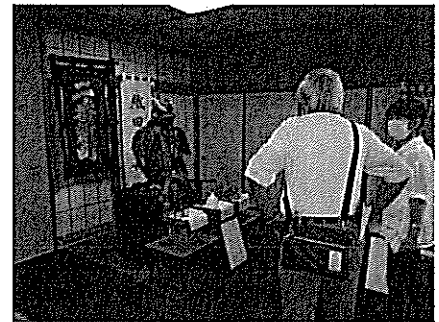
☆ 地域の魅力再発見のための学習会

川原校下にある22の町内会の代表者を集ってもらい、地域の魅力について話し合った。話し合いの中で、古くから伝わる「川巴良諏訪神社由来の母衣武者」を取り上げればいいという意見が多かった。そこで、母衣武者についての学習会を行った。毎年5月10日に各町内で飾り付けられ、展示されている母衣武者であるが、意外に他の町内のことは知らない人が多かった。知っているようで案外知らない川原の貴重な文化財を再認識するよい機会となった。



☆ 母衣武者展示イベント

9月25日に開催された「第28回川原公民館まつり」の特別展示として、4つの町内の母衣武者を展示した。当日は、約600人の来場者があり、多くの人々が普段はあまり目にすることがない母衣武者に興味深く見学されていた姿が印象的だった。実物をじっくりと見ることで、歴史の重さを感じられていたようである。



☆ 母衣武者のパフレットを作成、配布

母衣武者展示イベントで興味関心が高まったところで、母衣武者のパフレットを作成した。パフレットの内容は、「川巴良諏訪神社の歴史」、「母衣武者について」、「母衣武者行列」、「各町内の母衣武者」とした。略年表や町内の地図、カラー写真を活用して、幅広い年代の人々に分かりやすく見てもらえるよう工夫した。また、多くの人に見てもらえるようにと、「川原公民館だより」の中に盛り込み、全戸配布を行った。とても分かりやすいと好評を博し、隣町の方からもパフレットへの問い合わせがあった。

川巴良諏訪神社由来の母衣武者について

川巴良諏訪神社は、川原地区の中心に位置し、その歴史は古く、地域の文化財として大切に守られています。母衣武者は、この神社の歴史と深く結びついています。

(1) 川巴良諏訪神社の歴史について

年次	出来事
1600年	川巴良諏訪神社の創建
1605年	母衣武者の初代当主の誕生
1610年	母衣武者の初代当主の没
1615年	母衣武者の初代当主の再興
1620年	母衣武者の初代当主の没
1625年	母衣武者の初代当主の再興
1630年	母衣武者の初代当主の没
1635年	母衣武者の初代当主の再興
1640年	母衣武者の初代当主の没
1645年	母衣武者の初代当主の再興
1650年	母衣武者の初代当主の没
1655年	母衣武者の初代当主の再興
1660年	母衣武者の初代当主の没
1665年	母衣武者の初代当主の再興
1670年	母衣武者の初代当主の没
1675年	母衣武者の初代当主の再興
1680年	母衣武者の初代当主の没
1685年	母衣武者の初代当主の再興
1690年	母衣武者の初代当主の没
1695年	母衣武者の初代当主の再興
1700年	母衣武者の初代当主の没
1705年	母衣武者の初代当主の再興
1710年	母衣武者の初代当主の没
1715年	母衣武者の初代当主の再興
1720年	母衣武者の初代当主の没
1725年	母衣武者の初代当主の再興
1730年	母衣武者の初代当主の没
1735年	母衣武者の初代当主の再興
1740年	母衣武者の初代当主の没
1745年	母衣武者の初代当主の再興
1750年	母衣武者の初代当主の没
1755年	母衣武者の初代当主の再興
1760年	母衣武者の初代当主の没
1765年	母衣武者の初代当主の再興
1770年	母衣武者の初代当主の没
1775年	母衣武者の初代当主の再興
1780年	母衣武者の初代当主の没
1785年	母衣武者の初代当主の再興
1790年	母衣武者の初代当主の没
1795年	母衣武者の初代当主の再興
1800年	母衣武者の初代当主の没
1805年	母衣武者の初代当主の再興
1810年	母衣武者の初代当主の没
1815年	母衣武者の初代当主の再興
1820年	母衣武者の初代当主の没
1825年	母衣武者の初代当主の再興
1830年	母衣武者の初代当主の没
1835年	母衣武者の初代当主の再興
1840年	母衣武者の初代当主の没
1845年	母衣武者の初代当主の再興
1850年	母衣武者の初代当主の没
1855年	母衣武者の初代当主の再興
1860年	母衣武者の初代当主の没
1865年	母衣武者の初代当主の再興
1870年	母衣武者の初代当主の没
1875年	母衣武者の初代当主の再興
1880年	母衣武者の初代当主の没
1885年	母衣武者の初代当主の再興
1890年	母衣武者の初代当主の没
1895年	母衣武者の初代当主の再興
1900年	母衣武者の初代当主の没
1905年	母衣武者の初代当主の再興
1910年	母衣武者の初代当主の没
1915年	母衣武者の初代当主の再興
1920年	母衣武者の初代当主の没
1925年	母衣武者の初代当主の再興
1930年	母衣武者の初代当主の没
1935年	母衣武者の初代当主の再興
1940年	母衣武者の初代当主の没
1945年	母衣武者の初代当主の再興
1950年	母衣武者の初代当主の没
1955年	母衣武者の初代当主の再興
1960年	母衣武者の初代当主の没
1965年	母衣武者の初代当主の再興
1970年	母衣武者の初代当主の没
1975年	母衣武者の初代当主の再興
1980年	母衣武者の初代当主の没
1985年	母衣武者の初代当主の再興
1990年	母衣武者の初代当主の没
1995年	母衣武者の初代当主の再興
2000年	母衣武者の初代当主の没
2005年	母衣武者の初代当主の再興
2010年	母衣武者の初代当主の没
2015年	母衣武者の初代当主の再興
2020年	母衣武者の初代当主の没
2025年	母衣武者の初代当主の再興

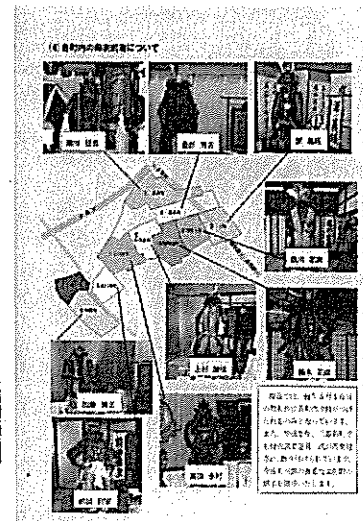
母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。

(2) 母衣武者について

母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。

(3) 川巴良諏訪神社由来の母衣武者について

川巴良諏訪神社由来の母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。母衣武者は、川巴良諏訪神社の歴史と深く結びついています。



◆事業の成果と課題

○成果

今回は「母衣武者」にスポットを当て、地域の魅力再発見を試みたわけだが、母衣武者の展示、パフレットの配布によって、地域の中にある貴重な文化財に対する関心や理解を深めることができた。そして、地域のことを詳しく知ることによって、地域への愛着も高まることが期待できる。

○課題

川原校下には、まだまだ多くの魅力的な文化財、伝統行事等が残っている。このような地域の魅力をどのように継承していくかを考えることが大切である。さらに、川原小学校が閉校されることで地域に対する愛着が薄れてしまう恐れがあるので、小・中学生に対して地域の魅力を知らせるためのアプローチが必要になってくると思う。そして、若い世代による地域の活性化を期待したい。

【地域振興型】

滑川市北加積地区公民館

◆地域の概要

- ・北加積地区は、市の平野部に在り、あいの風とやま鉄道滑川駅から北東に広がる地域である。
- ・一面に広がる田園風景は美しく、水資源も豊かな農業地域である。
- ・近年、滑川駅周辺では新興住宅地の開発が進み、人口が増えつつある。
- ・北加積小学校は、市内で唯一学校田を有しており、地域で協力して管理をしている。
- ・本公民館は、北加積小学校やきたかづみ認定こども園と隣接している。

◆地域課題

- ・近年、農業離れによる後継者不足があり、子供たちに「食農教育」を通して、農業に親しんでもらうとともに、先人の苦労や収穫の喜び、食に対する感謝の心を養うこと。
- ・田畑の手入れは大変であり、今後の継続継承に、地域住民の協力は必須であること。
- ・子供たちが農業体験を通して地域住民との交流を図り、地域の絆を深めること。

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
5 月 12 日 (木)	農業指導員ハウス (北加積地内)	種まき作業 (小学 5 年生)	33 名
5 月 31 日 (火)	北加積小学校田	田植え体験 (小学 5 年生) バケツ苗作り (年長組)	64 名
6 月 3 日 (金)	地域の田 (北加積地内)	スマート農業体験会 (自動田植え機、農業用ドローン他)	84 名
10 月 13 日 (木)	北加積小学校田	稲刈り体験 (小学 5 年生・年長組)	65 名
12 月 3 日 (土)	北加積小学校 体育館	餅つき集会 (全校生徒及び地域住民)	250 名
12 月 16 日 (金)	きたかづみ認定 こども園	稲穂の正月用リース作り (年長組)	20 名

◆事業の様子

☆「種まき作業」

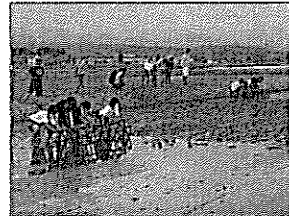
地域の農業者の指導のもと、ビニールハウスの中で小学生が種まきを行い、発芽の様子や苗作りを学んだ。



☆「田植え体験（小学5年生）」「バケツ苗作り（年長組）」

学校田で小学生が「ころがし」と呼ばれる田植え用の枠を使い、昔ながらの手植えに挑戦し、先人達の知恵や苦労を体験した。

また、こども園の年長組が、バケツで苗作りを行った。完成したバケツ苗は、こども園の前に並べ、毎日園児たちが稲の成長を見守っていた。



☆「スマート農業体験会」

小学生が地域の田んぼで、自動田植え機の試乗やドローン散布機、自動草刈機を見学し、最新のスマート農業を学んだ。

子供たちは、先に伝統的な方法の手植えを体験しており、最新のスマート農業と比較をすることができた。

また当日は、地元の農機具メーカー、農業者、保護者などたくさんの方と子供たちが触れ合うことができた。



☆「稲刈り体験」

学校田で小学生が、鎌を使って稲刈りを行った。自分たちで種をまき、発芽させ、植え育てた稲を、自分たちの手で刈り取ることで、農業の大変さと収穫の喜びを体験することができた。



☆「餅つき集会」

北加積小の体育館で、PTAが主体となって5年生が育てたもち米を使った餅つき集会を開催した。全校児童が参加し、地元の方にやり方を教えてもらいながら、餅ができあがるまでを体験した。

つくたての餅は、皆で仲良く食べ、食への感謝の心を養った。



☆「稲穂の正月用リース作り」

年長組の園児たちが、自分たちで育てたバケツ苗の稲穂をリース状に編み込み、正月飾りを製作した。

園児たちが花やしきなどの装飾も作成し、立派なしめ縄が完成した。



◆事業の成果と課題

当該事業が、チラシや回覧板だけでなく、新聞、テレビ、ラジオ等で報道され、地域の多くの方に活動を周知することができた。また、スマート農業への保護者や地域の方の関心度の高さが伺え、多数の方の協力のもと、多世代交流を通して、食農教育を充実させることができた。

日本の未来のために、心豊かな文化として、伝統ある農業が継続できるよう、さらに知識を深めるなどの努力をしたいと思います。

【地域振興型】

砺波市立梅檀山公民館

◆地域の概要

- ・本地域は、中山間地に位置し、土砂災害危険区域にも指定されています。
- ・自然に囲まれて、四季を体感できる地域であるため、春には水仙そば祭り、秋にはにははコスモスウォッチングが開催され、県内外からたくさんの観光客が訪れます。また、冬には、夢の平スキー場に、ウィンタースポーツをする方達で賑わいます。
- ・本地域は2人～3人に1人が、高齢者という、少子高齢化が最も進んでいる地域です。
- ・隣の家までが遠く、回覧版などは車で持って行かなければならない状態であり、高齢者の家では、回覧版が止まることがたびたびです。

◆地域課題

- ・少子高齢化
- ・公民館活動の高齢化

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
7月28日(木)	梅檀山集落センター	高齢者のタブレット講習会	23名
8月8日(月)～ 8月12日(金)	梅檀山集落センター	高齢者のタブレットの使い方の情報交換	86名
10月29日(土) ～10月30日(日)	東京ディズニーシー と少林寺達磨寺	東京一泊研修	27名
11月21日(月)	梅檀山体育館	デジタル避難訓練	41名

◆事業の様子

☆ 高齢者のタブレット講習会

生活の一部にタブレットを取り入れてもらいたく、昨年から講習会を開催しています。しかしながら、今年初めて開催したタブレットの講習会では、すでに電源の入れ方を忘れている高齢者がいたことに、驚きました。デジタルは苦手だと思っていた方も、富山大学の学生が優しく教えてくれると、楽しそうに取り組んでいました。講習会に参加して、「できた！」という満足感が得られたことは成果の一つです。



☆ 高齢者のタブレットの使い方の情報交換会

今年、東京大学からフィールドスタディー体験で、本地域にタブレットを生活の一部にする提案をしてもらいました。

まず東京大学の学生は、高齢者に、「何が困ってるのか？」と、質問し、高齢者の困りごとを集めました。主な悩みは、デジタルは苦手だと思っていることです。その問題を解決するため、高齢者が楽しくタブレットを見られるようにと脳トレゲームを、推奨してくれました。これは、ゲーム感覚で楽しく、継続的にしています。

☆ 東京一泊研修

公民館事業では初めての試みです。大型バスで、83歳～7歳の幅広い年齢層の住民で東京へ研修に行ってきました。行きのバスの中では、参加者みんなで自己紹介をしていましたが、帰りのバスでは、ひとつの家族のようでした。高齢者の方が、「老人会の旅行と違って、ディズニーも初めて、若い人たちと食事をしたのも初めてでいい思い出になった。」と言ってもらえました。

また、ディズニーシーでは、タブレットの講習でお世話になった、東京大学の学生と合流しました。教えてもらったタブレットで写真を撮りました。タブレットで撮影した写真は、公民館まつりで展示しました。

☆ デジタル避難訓練

今まで学んできたことを実践するため、デジタル避難訓練を実施しました。全地区民のタブレット・スマートフォンに、緊急警報がなり、避難できる住民は、梅檀山体育館に避難しました。梅檀山体育館では、富山大学の学生が、高齢者に段ボールベットとテントの作り方を指導しました。

富山大学の若い学生と楽しそうにやりとりをする地域住民（主に高齢者）を見た、新聞記者が、「これが、地域の活性化ですね。」と発言され、温かい気持ちになりました。

◆事業の成果と課題

はつらつ公民館支援事業助成金のおかげで、東京一泊研修に行くことができ、地域住民との親睦深めることができました。さらに、東京で東京大学の学生と再会することができました。また、デジタル避難訓練では、富山大学の学生から高齢者に段ボールベット・テント・簡易トイレなどの作り方を学び、住民より、「今度避難所開設したら、手伝う。」との声をかけてもらいました。今まで他人事だった避難所開設ですが、多くの方に関心を持ってもらう事ができました。

今後は、一人暮らしや高齢者世帯をタブレットで見守りができないかということや、どうしても高齢者はタブレットの使い方をすぐに忘れてしまうので、そのことをどう解決していくかが課題です。

【地域振興型】

井口地域づくり協議会

◆地域の概要

- ・ 富山県の西部に位置し、砺波平野南部の稲作単作地域。
- ・ 地域の面積は 11.50 ㎏で、南側は標高 1,000m級の赤祖父連山が聳える。
- ・ 地域の人口動態の特色として少子高齢化問題は当地域も例外でなく進行しており、隣接地域も同様の懸念となっている。
- ・ 令和 3 年には南砺市初の小中一貫教育として南砺市立つばき学舎が開校し令和 5 年度からは特認校として教育環境の充実に努めている。

◆地域課題

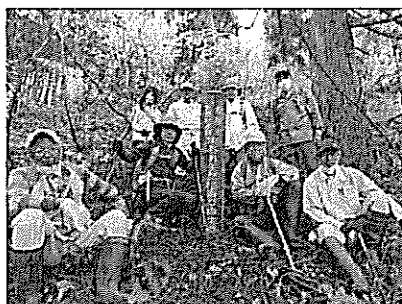
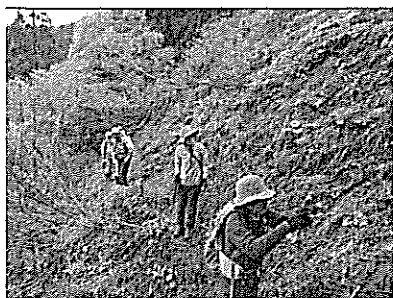
- ・ 地域の天然記念物（副除草自生地、丸山の大ユキバタツバキ）を観察、学習
- ・ 地域住民及び天然記念物を広く認知してもらい大切に守っていく活動の実施

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
4 月 24 日 (日)	井口地内	専門家（ナチュラリスト）と 現地観察	8 名
7 月 31 日 (日)	入善町 朝日町	先進地視察 杉沢の沢スギ（沢スギ自然館） 宮崎鹿島樹叢（鹿島神社）	7 名
9 月 27 日 (火)	社会福祉センター	ワークショップ 出来ること、課題を検討	7 名
11 月 3 日 (木)	赤祖父山	初のツアー計画 赤祖父山の紅葉ツアー	7 名
11 月 6 日 (日)	いのくち椿館	生涯学習フェスにて ふるさとの宝守り隊の活動発表	100 名
3 月 7 日 (火)	社会福祉センター	活動のまとめ	8 名

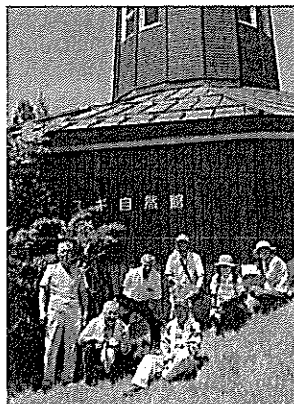
◆事業の様子

☆ 専門家（ナチュラリスト）と現地視察



☆ 学習会 先進地視察

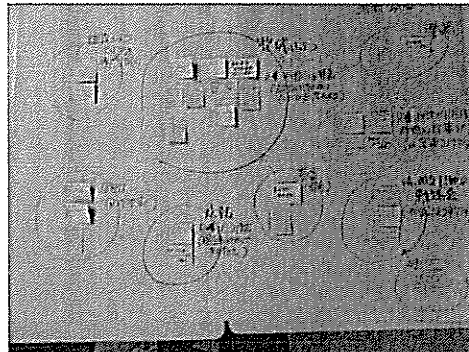
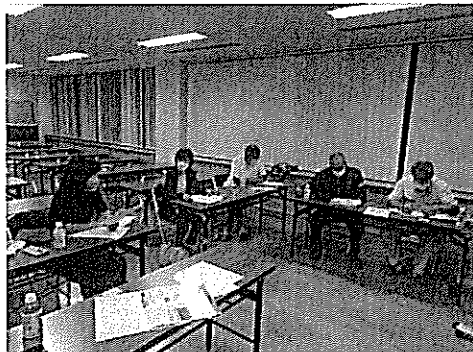
杉沢の沢スギ（入善町）、宮崎樹叢（朝日町）
杉原敏夫氏による保護活動について説明
宮崎鹿島樹叢、教育委員会より説明



☆ ワークショップ

ふるさとの宝をまもるには

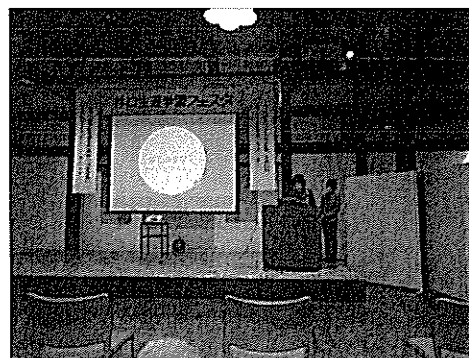
- ・出来ることから始めよう
（整備に関して）
- ・調査しよう
- ・周知・広報活動
- ・ツアー実施
- ・赤祖父湖周辺の勉強会



☆ 学習成果発表

（生涯学習フェスティバルにて）

ふるさとの宝守り隊員のパワーポイントによる発表



◆事業の成果と課題

- ・井口地域及び県内の現地視察を行い、天然記念物等の理解を深め、今後守っていくことの大切さを学べた。
- ・隊員も知らないことが多く、来年度も活動を継続し、徐々に仲間を増やしていくことが必要。
- ・今年度は、出来ることからとの考えより 11 月に赤祖父紅葉ツアーを開催。
- ・井口の文化財のパフレット作製、配布予定。
- ・天然記念物の調査。（専門家を招聘し調査）
- ・散策道の整備（ボランティア募集）予定。

【地域振興型】

南砺市福野北部地域づくり協議会

◆地域の概要

- ・本地域は、南砺市の最北端に位置する。
- ・近年大企業の進出によって工場が新設され、昭和 45 年頃には戸数 450 戸余り人口 2,730 で純農村地帯(砺波地区特有の散居村であった)
- ・ここ数年で新興住宅団地が立ち並び戸数 1,330 戸人口 3,880 人と増え混住化が進んでいる。
- ・一級河川小矢部川とその水系旅川があり、昭和から平成までに 4 回の水害で家屋等の浸水被害が発生している。

◆地域課題

住民誰もが暮らしやすい社会の構築、近所の助け合いで住みよい地域を混住化により隣、近所、地域との希薄化。

これからの地域住民の危機意識の向上、地域の安心安全を語る。

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
6 月 19 日(日)	地区交流センター 自治会毎の現地調査	・危険箇所点検スケジュール ・用排水路危険箇所点検調査 ・現地調査結果その対応策の検討	21 名
9 月 16 日(金)	地区交流センター	・北部地区防災訓練について 南砺市総務課防災係来所 訓練実施内容検討	8 名
10 月 9 日(日)	地区北部体育館	・「地域防災力の向上を目指して」 洪水災害対策について 講演会 講師 県防災士会 理事長 佐伯邦夫氏	87 名
12 月 3 日(日)	地区交流センター	・地区防災計画策定について みんなでつくる地区防災計画 講師 県防災士理事長 佐伯邦夫氏 南砺市総務課防災危機管理係参加	38 名

◆事業の様子

☆ 用排水路危険箇所点検調査

地域住民特に高齢者や子どもたちを水の災害から守るためにはどうすればいいのか、安全環境部会、自治会区長 21 名でそれぞれの自治会で抱える問題点を話し合った。その後現地調査を実施する。

- ・対応策等

○高儀地区 城端線の横に用水路があるが夜には全く足元がわからない状態であつた。令和 4 年 3 月



対策済(新たに防犯灯の設置)

- 岩武新地区 部分的に開口した2ヶ所にチェーン等を設置し用水路転落事故防止を図る。検討中
- 本江地区 多面的機能支払交付金を活用し、継続的に用水路転落事故防止を実施している。用水路口40ヶ所にコンクリート板を設置予定。令和5年2月10日に設置完了。
- 野尻古村地区 将来的には、ガイドブックを設置したい。当面は危険箇所啓発の看板設置予定。看板については、6月26日設置する。
- 上津地区 市道に架かる橋については、市の建設維持課と協議中である。村道の橋については、老朽化も進み地区で検討中である。(現在通行止めチェーン張り)
- 柴田屋地区 水門の開口部については、チェーン等の設置を検討する。棚のない場所については、危険箇所啓発の看板設置予定。

北部地域には11の自治会があり、令和2年から用排水路危険箇所点検調査、対応策を講じている。

☆ 地区防災訓練 『地域防災力の向上を目指して』

内容 南砺市のハザードマップと昭和28年の豪雨災害の写真及び北部地区が洪水になり易い地理的要因から北部地区を対象とした「洪水災害対策」と題して講演会を開催することとした。

☆ 地区防災訓練

内容 洪水災害対策についてと題し講演会の開催

昨今気象変動の変更による水災害の激甚化・頻発している。地区を流れる小矢部川、旅川があり全国でも有数の多雨多雪地帯である。主な洪水では①昭和28年9月(台風13号) ②昭和38年6月(台風2号) ③昭和39年7月(梅雨前線) ④平成2年9月(台風19号) ⑤平成10年9月(台風7号) であることから、南砺市洪水ハザードマップ想定最大規模で早期の立退き非難が必要な区域が多い。長年住み慣れた地域、慣れの怖さを改めて知り地域住民で共通理解のもと、地域住民主体の防災対策、自らの命は自らが守る意識を持つことが大切である。特にハザードマップを面で見たときに災害の起きやすい地域の受講者は改めて自然災害の怖さを知り、うまく避難するための「日頃の備え」の必要性を再認識したであろう。

☆ 地区防災計画策定 みんなでつくる地区防災計画

内容 災害時における自助・共助の重要性、防災の考え方の大転換、地区防災計画策定の策定・推進の必要(一刻も早く作り上げる必要がある)

①地区の特性に応じた計画 ②継続的に地域防災力を向上させる計画 ③地域住民が作成する防災計画 ④地区防災計画をつくろう ⑤地区防災計画のまとめ。現状のままでは、今まさに私たちに襲いかかろうとする超巨大地震、記録的豪雨などの猛威に立ち向かうことはできない。その猛威に立ち向かうための態勢を一刻も早く地区防災計画を策定・推進することである。



◆事業の今後の進め方と課題

「地区防災計画」策定のため、4月から10月に事業(イベント)を実施訓練することで、トップダウン型からボトムアップ型の地域住民主体の地域防災計画の策定に入る。

昼夜の人口構成が大きく変わるため、住民の連絡体制も複数系統を考慮すべきである。

一人暮らしの高齢者宅や要介護者宅を確認しその対応策を講ずる。

日頃の河川管理やゴミ等の不法投棄問題に関心を持つ。

【地域振興型】

南山田地域づくり協議会

◆地域の概要

- ・南砺市の中でも 6 番目の人口があり、子供達も多いが、スポーツクラブや塾など、子供自身日々忙しく、地域住民と接触する機会が少ないので、機会を設けて積極的に地域住民と接する機会を設けたいと思っている。

◆地域課題

- ・少子高齢化による子供の減少により、子供と地域との交流が希薄になっている。地域の子供達に幼少時より色々な事業に参加してもらい、地域への愛着を深めるとともに相互理解を図る。

◆事業の流れ

実施日	場所	活動内容	参加人数
7 月 27 日 (水)	南山田交流センター	講師指導の下で、写生会	子供 13 名 保護者 5 名 スタッフ 6 名 計 24 名
7 月 31 日 (日)	クアガーデンホテル	支配人よりマナーを学ぶ	子供 8 名 保護者 6 名 スタッフ 5 名 計 19 名
10 月 23 日 (日)	千華園 (南山田是安)	好きな花を選び指導の下 それぞれ思いの鉢を作成	子供 11 名 保護者 4 名 スタッフ 7 名 計 22 名
12 月 17 日 (土)	交流センター	指導者の元、疑似ペタンク 体験	子供 2 名 保護者・ スタッフ 7 名 計 9 名

◆事業の様子

☆ 7/27 写生大会

地場産の野菜や果物・お花などを並べて、それぞれ好みの写生を、先生に聞きながらキャンパスに書き、色付けをし、修正しながら、完成させました。夏休みの宿題のお手伝いにもなり喜ばれた。



☆ 7/31 マナー教室

毎年、夏休み子供教室事業。これから大人になる子供達に色々な機会で発揮できるよう手助けしたく計画。毎年、好評。



☆ 10/23 ガーデニング教室

好きな花を選び、講師に指導を受けながら、思い思いの鉢を作成。



☆12/17 スライディングペタンク教室

円形の木を滑らせて的に近いほうが勝ちという競技。残念ながら定員に満たなく教室を開催出来なかった。

◆事業の成果と課題

今年は with コロナで、事業を計画実行。検温・消毒・マスク着用・換気等に気を付け実施。

殆ど何事もなく無事実行できたことは大変うれしく思った。参加していただいた親子や地区民の方々に感謝と共に、来年こそ、もっと満足いただける事業になるよう頑張りたい。

体験交流型

【体験交流型】

富山市立奥田北公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

高齢者と小学校児童との世代間交流として、奥田北校下社会福祉協議会メンバーである高齢者のサポートのもと、5年生児童がもち米の種まきから稲刈り・脱穀までの稲作作業を体験し、その体験を通じ植物や自然に触れることで子ども達の主体性や自主性を引き出すとともに、地域高齢者と児童が採れたもち米で「餅つき」をして収穫の喜びを一緒になって分かち合うことで児童達の情操を養うもの。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
4月8日(金)	種まき	奥田北小学校	72名
5月19日(木)	田植え	奥田北っ子にここ農園	110名
9月21日(水)	稲刈り	奥田北っ子にここ農園	102名
9月30日(金)	脱穀	奥田北っ子にここ農園	114名
11月21日(月)	餅つき大会	奥田北小学校体育館	103名

◆事業の様子

種蒔き



田植え



稲刈り



脱穀



餅つき大会



◆事業の成果と課題

昨年に引き続きコロナ禍での取り組みではあったが、昨年はコロナのため出来なかった地域高齢者と児童が採れたもち米で餅つきをして収穫の喜びを一緒になって分かち合う「餅つき大会」を開催することができたので、例年に比べかなりのレベルで事業の目的は果たせたと思う。コロナのため会食交流については中止となったが、稲作体験自体の達成感や地域の方々との繋がり感等の醸成を図ることができたと思う。

【体験交流型】

浅井コミュニティセンター

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	

◆事業の目的

子供たちが活動を通して、地域の自然のすばらしさや地域の人とのふれあいの大切さを学び、豊かな感性を育むと同時に純粋に楽しむことを体験してもらう。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6 月 25 日 (土)	あやめ移植体験	広上地内	39 名
8 月 10 日 (水)	天体ウォッチング	浅井体育館・グラウンド	41 名
11 月 26 日 (土)	運動教室	浅井体育館	12 名
12 月 10 日 (土)	ミニ門松づくり	浅井コミュニティセンター	29 名
3 月 18 日 (土)	三世代交流のつどい防災教室	浅井コミュニティセンター・体育館	82 名

◆事業の様子

☆ あやめ移植体験

30℃にもなる暑い日でしたが、子供たちは元気にお父さんお母さんと一緒に参加してくれました。あやめの球根も見るとも初めてで、それを遊歩道に植えるというなかなか無い体験でした。「来年咲くのが楽しみ」と話してくれた子もいました。ぜひ散歩に出かけて見に来てほしいと思います。



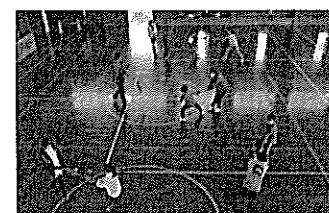
☆ 天体ウォッチング

当日は天候が悪く、残念ながら星は見えず、月もうっすらとしか見ることが出来ませんでした。けれど普段は見られない大きな天体望遠鏡や器材に子供たちは興味津々で、星や月の説明に熱心にメモを取る子もいました。2035 年 9 月 2 日には富山でも皆既日食が見られるということで、「絶対見たい！楽しみ」と瞳を輝かせていたのが印象的でした。



☆ 運動教室

新聞紙やカラービニールテープを使ってフリスビーを作り、それを投げたりキャッチしたり、ポケットコースターと呼ばれるビニール袋を使って親が子供を引っ張ったりしました。またボールを使つての運動も行いました。親子で一緒になって体を動かし、「良いコミュニケーションの時間になった」という感想をいただきました。



☆ ミニ門松づくり

教え合ったり相談し合ったりしながら、とても明るい楽しい雰囲気でした。参加された方は「楽しかった」「きれいにできた」「子供たちがかわかった〜」「長く楽しめるようにしたい」と笑顔で感想を伝えてくださいました。



◆事業の成果と課題

生活する地域の自然に触れ、実体験から次への挑戦や楽しみを抱くことが出来ました。また、コロナ過で分断されつつある人と人のふれあいの大切さ、楽しさを感じてもらえることが出来たのではないかと思います。今後はさらに世代を超え、浅井地域の人と自然のつながりを広めていきたいです。

【体験交流型】

魚津市立上中島公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○			○	

◆事業の目的

休耕地に花を植えることによってこの地区の魅力的な景観を地区内外に発信したい。

また、花の種まきや手入れ、摘み取りなどを通して地区に住む様々な世代が交流する機会を作る。

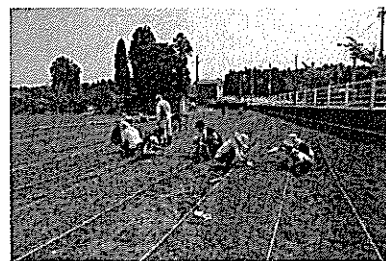
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月 5日 (日)	草刈り	浅生地内休耕地	6名
6月 19日 (日)	ひまわりの種まき	浅生地内休耕地	25名
8月 21日 (日)	ひまわりの花摘み	浅生地内休耕地	18名
10月 30日 (日)	菜の花の種まき	浅生地内休耕地	8名

◆事業の様子

☆ 草刈り

ひまわりの種を植える準備として、対象となる休耕地の草刈りを地区の人たちにも声をかけて行った。



☆ ひまわりの種まき

地元の小学生には学校を通して参加者を募集し、地区の希望者とともにひまわりの種を植えた。家でも花を楽しんでもらえるように参加者には帰りに花苗と余ったひまわりの種を持ち帰ってもらった。

☆ ひまわりの花摘み

日程の都合上、満開からちょうど1週間後くらいの花摘みであった。前日が暴風雨だったせいか参加者は少なかった。

花のピークは過ぎていたが、それでも各自思い思いの花を摘んできれいな花束にして持ち帰った。



☆ 菜の花の種まき

来年の春に向けてひまわりの跡地に菜の花の種を蒔いた。あまり面積も広くないので、今回は少人数での活動とした。

◆事業の成果と課題

休耕地の場所がちょうど道路脇でひまわりが黄色い花をつけ始めると視界に入りやすくなり、通りかかった皆さんから気にかけていただいていたようである。

近所の方の話では時折、地区内外から写真を撮りに来る方も見受けられたという。

【体験交流型】

氷見市女良公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○	○	○

◆事業の目的

豊かな自然を生かした地域のよさを活用し、子供たちと地域住民、さらには地元の高校生と共に体験したり交流したりする場を提供することにより、双方向が地域のよさを再発見したり地域への愛着をもったりする機会とする。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月17日(日) 11月2日(水)	虻が島自然学習① 虻が島学習・虻が島清掃 虻が島自然学習② 虻が島にクロマツ移植体験	虻が島	65名
12月18日(日)	ミニ門松づくり教室	地域内	29名
11月27日(日) 3月5日(予定)	女良ワカメの養殖体験①ワカメの種付け体験 女良ワカメの養殖体験②ワカメの刈り取り体験	地域内	213名

◆事業の様子

☆ 虻が島自然学習

7月は親子参加希望者による「虻が島自然学習」を実施し、関自然観察指導員や高岡生物研究会の泉会長から実物を観察しながら虻が島の貴重な植物や生き物について学んだ。子供たちはその後、虻が島のゴミ拾いを行った。



11月は地域住民も危惧していた松の木への試みが実施された。今回は3人の樹木匠の指導の下、関わり続けてくれる小学生、「虻が島を守る会」、ロータリークラブ、宇波公民館など多くの方々の協力のもと移植を試みた。虻が島を守る大きな一歩を踏み出すことができた。



☆ ミニ門松づくり教室

門松の由来を学ぶことから始まり、新年を家族で迎える準備をする場を提供する取組である。その際、門松に使われる材料は地域に自生する身近なものであることにも触れ、今後も自分たちで材料を集め、竹を切り福を迎える家族の取組となることを願っている。

☆ 女良ワカメの養殖体験

ワカメの種付けから刈り取りまでの活動を通して、海の豊かさとその海を守っていく大切さを実感する機会とした。今年も海洋科学科の高校生が参加し一連の活動を支えてくれた。また、小学生は種付け時に名前の付いたタグを取り付け、ワカメの生長をより実感できる場とした。今回は地域づくり協議会にも協力を依頼し、この取組が様々な世代の楽しい交流の場となるように取り組んだ。



◆事業の成果と課題

過疎化が進む地区ではあるが、幼児・小学生から高校生などいろいろな世代の地域住民や他地域との交流の場を生かし、地域づくり協議会と連携しながら維持発展していく手がかりを探っていきたい。

【体験交流型】

氷見市宇波公民館

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
		○	○	○

◆事業の目的

地元灘浦地域で古くから親しまれてきた県指定天然記念物の虻が島の自然環境を守る活動を通して、地元への愛着の醸成を図る。また、祖父母の代から伝えられている宇波音頭・女良音頭を体験することや一緒に花火大会を鑑賞することで、地区住民とのふれあい交流活動を推進し郷土愛の醸成を図る。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5 月 1 4 日 (土)	ふるさとふれあい祭り	灘浦小学校他	1 5 0 名
7 月 1 7 日 (日)	虻が島自然観察体験	虻が島	3 6 名
1 0 月 2 日 (日)	魚釣り大会	大境海岸	3 2 名
1 1 月 4 日 (金)	虻が島松の木移植体験	虻が島	2 0 名

◆事業の様子

☆ ふるさとふれあい祭り

灘浦小学校児童が宇波音頭・女良音頭（盆踊り）を体験し、伝統文化に学び親しんだ。また、「花火に願いを込め、灘浦校区のみんなで、心をつなごう！」をテーマに花火大会を通して地区住民とのふれあい交流活動を行なった。



☆ 虻が島自然観察体験

灘浦小学校児童親子で虻が島の動植物について、自然保護員などから説明を受け、その観察を行なうとともに、親子で虻が島の清掃活動を行なった。



☆ 魚釣り大会

灘浦小学校児童親子で魚釣りを体験し、郷土灘浦の自然を学び感じとった。

☆ 虻が島松の木移植体験

灘浦小学校児童が、虻が島に松の木の移植を体験し、天然記念物虻が島の自然保護の大切さを学んだ。



◆事業の成果と課題

灘浦小学校下の宇波公民館と女良公民館が連携して、地元の虻が島などの自然豊かな中で児童親子が地域の自然・文化に親しみ、子供たちのふるさと灘浦への愛着心の醸成に繋がった。新型コロナで感染防止対策をしながら、できる範囲内で実施できた。

【体験交流型】

滑川市滑川東地区公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

ふるさと教育を中核とした事業の開催によって、住民間・世代間の交流、ふるさとへの関心や愛着心の向上、伝統行事を次代へ繋ぐ地域づくり・人材育成の推進を図る。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月8日(土)	ネブタ(大松明) 製作	寺家小学校	57名
7月31日(日)	ネブタ流し	和田の浜	28名
7月31日(日)	茅の輪くぐり	櫛原神社、櫛原神社裏場	約400名
9月11日(日)	ふるさとウォーキング	リバーサイドつるぎ見コース	16名
12月18日(日)	ミニ門松づくり体験	滑川東地区公民館内	10名
2月12日(日)	料理教室	市民交流プラザ3階調理室	12名

◆事業の様子

☆ ネブタ(大松明) 製作会

地元のボランティアスタッフに協力を仰ぎ、寺家小学校、同育友会と連携して2基の大松明を製作した。6年生には実際に製作指導、5年生にはリモートでネブタ流しの歴史やヒトガタの折り方を指導した。



☆ ネブタ流し

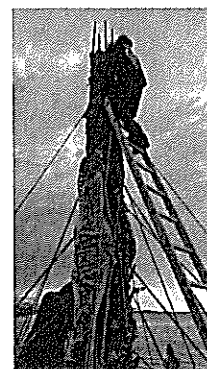
寺家小学校の6年生の親子とともにネブタ流しに参加し、地域住民の無病息災を祈った。

☆ 茅の輪くぐり

毎月地区内全世帯に配布している公民館ニュースで告知し、伝統神事の周知に努めた。

☆ ふるさとウォーキング

健康づくり推進委員会と共催し、上市川沿岸から望む立山連峰の風景などを楽しみながら約6.5キロのコースを歩いた。



☆ ミニ門松づくり体験

門松の由来や縄の結び方を学びながら、地元でとれる竹を使ってミニ門松づくりをした。

☆ 料理教室「体にやさしいお弁当づくり」

滑川西地区公民館と連携し、地元の食材を使った料理教室を開催した。



◆事業の成果と課題

二次元コードによるスマホでの申込を始めたところ、若い世代の参加者が増えた。しかしながら、高齢者のICT利活用には支援が必要であることや、対面でしか味わえない人との繋がりを求める人も多く、今後も地域住民のニーズや関心に合わせた多様な学習・体験の機会を設けていきたいと思う。

【体験交流型】

黒部市生涯学習文化スクエア

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
		○	○	○

◆事業の目的

- 子どもたちが地域の良さを再確認し、ふるさを大切にする気持ちを育む。また、ふるさとの伝統文化に触れる。
- 子どもたちが自然に親しむことで、豊かな情操を培う。
- コロナ禍で子どもたちの活動が制限される中、ひとつでも多くの楽しみをもち、体感することによって心や体の健康を保つ。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月2日(土)	フラワーアレンジメント教室	生涯学習文化スクエア	32名
8月11日(木)	親子石ころ探検隊	黒部川河川敷 生涯学習文化スクエア	20名
10月29日(土)	親子里山体験	黒部市文化伝承館 山本家	19名
11月3日(木)	干支の土人形絵付け体験	生涯学習文化スクエア	24名

◆事業の様子

☆ フラワーアレンジメント教室

日本の年中行事である七夕をイメージしたアレンジメントを制作した。生の植物に触れることで五感を刺激した。また、黒部市に古くから伝わる、七夕祭りを紹介した。

☆ 親子石ころ探検隊

黒部川の河川敷にある石ころを拾い、「黒部の石ころ」マップを作った。石を観察することで黒部川扇状地の成り立ちを知った。また、約1億年前の地層が見える所へも行った。

☆ 親子里山体験

愛本地区に残る、江戸時代の豪農の家「山本家」で、かまどを使い炊飯体験を行った。火のついたかまどに薪を燃やす体験をもした。炊きたてのかまどのご飯を親子で食べた。その他、山本家周辺のまち歩きを行った。

☆ 土人形絵付け体験教室

富山県の伝統工芸品に指定されている、とやまの土人形絵付け体験を行った。来年の干支に当る卯の土人形に自由な発想で色を塗り丁寧に仕上げていた。

◆事業の成果と課題

4回の体験をとおして、ふるさと富山、黒部をいろんな角度から紹介することが出来た。特に、バスに乗り、普段行くことのできない林道沿いの地層を見に行くことができた。コロナ禍で定員を抑えての活動だったが、その分親子でのびのびと活動したり、講師からの指導を丁寧に受けたりすることができた。今年度は、里山に行くことが多かったが、黒部にはまだまだ紹介できる自然や歴史、文化があるので、少しずつ内容を広げていき、地元に興味を持ってもらえるようにしたい。



【体験交流型】

黒部市立三日市公民館

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○			○

◆事業の目的

家族や地域の人たちと一緒に地域の歴史や文化、食文化について学び、郷土の魅力を発見し故郷を大切に作る心を育てるとともに、スポーツを共に体験することで地域の絆を深める。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7 月 26 日 (火)	ニュースポーツ体験	三日市公民館	27 名
7 月 27 日 (水)	郷土のおやつ・食文化	三日市公民家	21 名
10 月 22.23 (土・日)	クイズラリー	三日市公民館	351 名

◆事業の様子

☆ ニュースポーツ体験

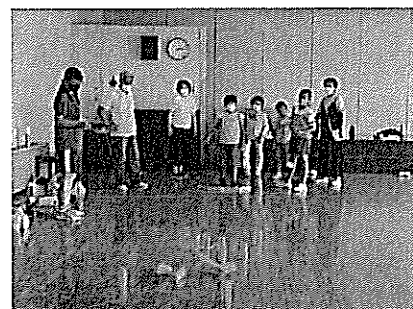
フィンランド由来のスポーツ「モルック」を体験した。ルールはともシンプルでわかりやすく子供、保護者、三日市健朗会のメンバー（高齢者）混合でチームを作り対戦したが、皆すぐにルールを把握して試合に臨んでいた。高齢者の方が素晴らしいプレイを行うと子供から「おばあちゃんすごい！」と歓声が沸き起こるなど、世代間の交流を深めることができた。

☆ 郷土のおやつ・食文化

三日市食生活改善推進員を講師に迎え、水だんごの作り方や食文化について学んだ。だんごの生地の水加減などで少々苦労していた様子が伺えたが、だんごをゆでる時には譲り合って鍋に入れるなど協力しながら調理を行った。保護者の方からもレシピや作り方について積極的に質問が出るなど活発な交流活動となった。

☆ クイズラリー

公民館まつりの時に、子供向けのクイズを館内の各所に隠してラリーを行った。クイズの内容は三日市にちなんだものを出題し、問題を解きながら地域の歴史や文化が学べるように工夫した。問題がわからない時には、周りの公民館スタッフや地区ボランティア部会員に質問をする姿が見られた。



◆事業の成果と課題

事業を通して、自分達の住んでいる土地の歴史や文化を知るだけでなく、世代間の交流も深める事ができた。これからもこの活動を継続する事により、今は子供だった参加者がやがて大人になって、また参加してくれる事に期待したい。あとは、中学生・高校生の世代の積極的な参加を期待した時に、どういう活動を行えば彼らに興味を持ってもらえるのかという事をこれからの課題としたい。

【体験交流型】

黒部市立若栗公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

身近な自然とふれあいや体験をとおして、子供たちがふるさとの文化や自然を学び、また、地域での交流をとおして、ふるさとへの誇りや愛着、伝統や文化の継承を育む。また、環境保全への取り組みを学び、環境問題を学ぶ。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
4月3日(日)	ボランティア清掃活動	地域内及び黒瀬川河川内	330名
5月27日(金)	自然体験活動	黒瀬川	30名
7月23日(月)	自然体験活動	黒瀬川およびベルトパーク	30名、80名
8月10日(水)	地域の伝統や文化の継承活動	若栗公民館	120名

◆事業の様子

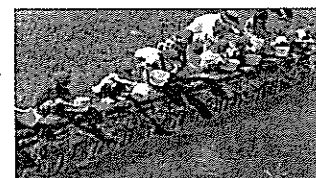
☆ 地域挙げた環境問題への取り組み（ヤマメの住める河川のために）

若栗地区あげて地域をきれいにすることを目的に、地域内を歩きながらゴミ拾いをしました。途中植物を観察したり、川の魚を見たりして、親子のふれあいと環境問題を学びました。



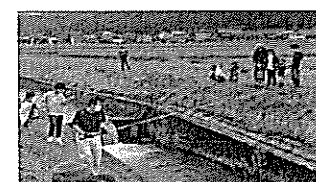
☆ ヤマメの一生と生育の観察と、ヤマメの稚魚放流

きれいになった黒瀬川で、ヤマメの稚魚を放流しました。ヤマメが海に行きサクラマスになってこの川に帰ってくる話を聞いて「おおきくなってかえってきてね」と声をかけながら放流しました。



☆ 昔ながらの仕掛けによるヤマメ釣り

講師による仕掛けづくりの指導を受け、ヤマメ釣りをしました。今まで昔ながらの竹竿で行っていたが、竹竿の劣化と入手困難な為、昨年釣竿を購入して行った。釣れた親子は大きな歓声を上げていました。



☆ 魚つかみ体験

ベルトパークで魚つかみを行った。当日は急な雨で参加人数が少なかったが、子供たちは元気に歓声を上げ、大はしゃぎで楽しく魚をつかんでいました。



☆ 伝統ある盆踊りの練習会と盆踊り大会への参加

毎年恒例行事である盆踊り大会を開催するに至って、練習会を行った。コロナの影響で小学校児童を対象に3回に分けて行った。残念ながら保育所での練習会は出来なかったが、参加した子供達は伝統ある盆踊りを真剣に取り組んでいた。当日は雨天の為盆踊り大会は中止にした。



◆事業の成果と課題

地区内や川をきれいにし、ヤマメの稚魚放流や釣り大会、魚つかみ大会は、自然を肌で感じる体験として有意義な活動であり、園児や児童が大人になっても自然の大切さ学ぶ活動ができました。また、盆踊り大会は雨天で中止にしたが、盆踊りの練習や他の事業にもたくさんの方に参加して頂き、子どもたちにも伝統的な文化の継承につながる事業となりました。

【体験交流型】

黒部市立東布施公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○		○

◆事業の目的

高齢化が進み、持続が難しくなっている地元のそばづくり。地区としての認知度を上げつつ、関心のある人を増やし、継承と地域活性化を図る。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
8月7日(日)	そばの種まき	東布施公民館、笠破圃場	16名
9月18日(日)	そば畑草刈り・花見	東布施公民館、笠破圃場	14名
10月16日(日)	そば収穫・掛け干し	東布施公民館、笠破圃場	15名
11月13日(日)	そば脱穀・唐箕がけ	東布施公民館、田糶納屋	14名
2月12日(日)	そば打ち	東布施公民館	37名

◆事業の様子

☆ 種まき

地元団体の布施谷ふるさと活性化委員会が20年続けてきた休耕田そば圃場(10a)にて、前年収穫したそばを種として、手まきを実施。種まき後は覆土のため熊手などを使って農作業体験。若い親子世代の参加もあり、そばの栄養素や発芽や成長などについて教わった。

☆ 草刈り・そば花見

農作業では避けては通れない草刈り。子供でも安全に行えるように畔面などを草刈鎌で刈り、収穫維持・管理の大変さと大切さを学び、そばの花見も楽しんだ。

☆ 収穫・掛け干し

8割程度黒化したそばの手刈り。天日干しに向けて、効率よく束ねるための刈り方や束ね方を生産者から教わりながら、交流を深めた。施設の柵をうまく使い掛け干しを実施。

☆ 脱穀・唐箕がけ

足踏み脱穀機と手回し唐箕を使って、昔ながらの手法でそばの実の選別を実施。機械の原理や効率の良い作業、昔の苦勞を教わりながら、そば粉になるまでのプロセスを教わりながら交流が図れた。

☆ そば打ち

いよいよみんなで育てたそばのそば打ち。二八そばを地元のそば打ち講師に教わりながら交流を図った。多くの方に参加いただき地元のそばへの関心増も感じられた。



◆事業の成果と課題

地区内の親子世代や地区外からの参加もあり、東布施地区でのそばづくりや交流に今まで以上に興味を持っていただけたと感じる。また受け入れ側としても参加者が来ることで意識向上とうれしさがあり、地域活動の維持が出来た。今後は若い世代のより多くの参加と年配者からの継承や地区外の方との交流を促進させ、ヒトの出入りの活発な地域を目指す。

【体験交流型】

黒部市立下立公民館

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

地域の自然、伝統文化に触れ、人との繋がりの中からふるさとの良さを認識してほしい。
三世代で参加することで、伝承の大切さや、繋がり的大事さを知って、さらに絆を深めていきたい。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5 月 15 日 (日)	歩行会	下立地区内	52 名
6 月 21 日 (火)	ちまき踊り練習	下立地区内	中止
8 月 27 日 (土)	そばの種まき体験	下立地区内	22 名
12 月 17 日 (土)	そば打ち体験	下立公民館	21 名
1 月 14 日 (土)	おんづろこんづろ (左義長)	下立神社境内	120 名

◆事業の様子

☆ 歩行会

全龍寺の天上絵を見学させてもらい、中世の山街道の歴史を学びながら、下立の霊水でのを潤しナチュラリストより植物や扇状地の話などを聞きました。また、森づくり活動での植樹の説明をうけ、新設された遊歩道を歩き、旧炭焼き小屋跡地を見学しました。さらに、金刀毘羅山より見る扇状地と黒部川は、とても思い出に残る景色となりました。



☆ そばの種まき体験とそば打ち体験

連日の雨で畑の水はけが悪く、一部ぬかるんでいるところもあり、長靴が抜けないというハプニングに襲われました。泥まみれになり整地をし、種をまいていきました。数日で芽が出るので、観察が楽しかったようです。保護者より、成長過程の報告を受けました。収穫したそば粉で、そば打ちの体験をしました。家庭にある道具で簡単な打ち方を習いました。その後、本格的なそば切り包丁を使い、そば切りも体験しました。



☆ おんづろこんづろ (左義長)

江戸時代より続く、伝統行事です。大雨の中での開催となりました。子供たちが由来を発表し、御神火をもらい、たいまつで点火します。無病息災と五穀豊穡、また、習字が高く舞い上がることで字が上手になることを願いました。落ち火で、焼いた餅を食べると健康に過ごせると言い伝えられています。家族4世代で、餅を焼く姿は、ほほえましかったです。長い棒の先に、アルミホイルで巻いた餅を針金で縛り、釣り竿のようにして各家庭で工夫をして焼きます。それも、風物詩となっています。



◆事業の成果と課題

コロナ禍を機に、出欠連絡をショートメールなどのデジタル技術を取入れることで参加者が増えました。また、個々とのコミュニケーションが取れるようになりました。さらに、中心になってくださる方がいて、保護者の方に声掛けをして頂けるような体制がとれたことに感謝します。



【体験交流型】

黒部市立浦山公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

豊かな自然に触れ合い、自分達の住んでいる地区を改めて見直し、自然環境の保全の意識を高める。
盆踊りの練習を通じて、地区の伝承文化継続に努める。
昔ながらの貴重な経験を一緒にすることで、三世代交流を深める。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月22日(水)	ホタルの観賞会	浦山地区地内	46名
7月1日(金)	盆踊り練習会①	①うらやま保育園	28名
8月3日(水)	盆踊り練習会②	②宇奈月小学校	33名
8月26日(金)	野菜作り教室	浦山交流センター	44名
9月25日(日)	糸細工	浦山交流センター	12名
11月23日(水)	糸紡ぎ	浦山交流センター	6名

◆事業の様子

☆ ホタルの観賞会

親子での参加、地域の方と大勢の参加となりました。里山ほたる同好会の方から、ホタルの説明や見どころを聞きながら約1時間の観賞会となりました。

☆ 盆踊り練習会

地域の皆さんにご協力頂き保育園年長児と小学生に盆踊り練習会を行いました。地区の盆おどりは中止となりましたが、毎年練習会を継続してきた成果が見られるようになりました。

☆ 野菜作り教室

有機生物で無農薬野菜を作る皆さんの協力を得、野菜のお話を聞きました。小さい種をひとつひとつ野菜ポットに入れたり、土に苗を植えたりしました。

☆ 糸細工

地域の方が綿花から紡いだ糸を使い、コットンボールを作りました。糸に好きな色を付け風船に糸を巻き付けてボール作りをしました。

☆ 糸紡ぎ

コロナ感染拡大により小学校が休校となった為、子供が参加できなくなりました。去年交流センター裏で栽培した綿花から糸紡ぎをしました。糸車を回しながら糸をよる作業は最初難しく、コツが分かると楽しみながら糸を紡ぐことができました。

◆事業の成果と課題

地域の方の協力を得ていろいろな体験を実施し、また昔ながらの作業を知る良い機会になりました。コロナ感染により三世代交流ができない事業もあり残念でした。



【体験交流型】

砺波市立青島公民館

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○	○	○	

◆事業の目的

地域の子供たちやその保護者、さらに地域の人たちとふるさとの伝統・文化にふれ、学ぶことで、郷土への愛着を育む事業を展開する

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
12 月 25 日 (日)	ワラガイ作り	庄川生涯学習センター	9 名
1 月 9 日 (月・祝)	左義長まつり	庄川中学校グラウンド	340 名

◆事業の様子

☆ ワラガイ作り

地域の農家さんを中心に作成しました。この事業は開始して10年になります。ワラガイは、誰にでもすぐに作れるわけではなく、マニュアルがあるわけでもないの、作り方は、地域の農家さんから代々受け継がれています。子供たちも参加し、わらの編み方を教わりながら、ワラガイを作成していました。



☆ 左義長まつり

コロナ禍で左義長の準備・作業時間を短縮する為、ワラガイ飾りを少なくした台のデザインを試みました。台数は例年通り、大（高さ約10メートル）、小（高さ約4メートル）の2つ作成しました。竹を組んで、化粧まわしのようにワラガイを巻きます。そうすることで、左義長の台の見栄えが良くなります。小さい台の方には書初め用紙で正面を飾りました。

一時突風に見舞われましたが、晴天に恵まれ、地域の方、約300名が正月飾りなどのお炊き出しに訪れました。神事を行った後、神主から火種をもらい点火し、一気に火柱が上がり、竹の「パン、パン」という音の迫力に、地域住民は驚きの声をあげていました。

◆事業の成果と課題

新型コロナウイルス感染症感染拡大を懸念して、夜高行燈を中止する地区があったため、5月に計画していた、「夜高行燈学習会」は中止になりました。少数ではありましたが、行燈練りまわしが行われ、観光客が見物に訪れました。少しずつではありますが、活気が戻ってきた町の様子がうれしく感じました。

コロナ禍でも開催できるよう、様々な工夫をこらして行事を実施しました。たくさんの方が参加されたことに、地域の伝統文化の継承につながっていくことを確信しました。また、今後も伝統行事を継続していくことが最も重要な課題であると考えました。

【体験交流型】

北山田地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○		○	

◆事業の目的

同じ校区内の子供達や親子での共同作業となり、全員での勤労体験を通して労働の大切さや農作業の成長の喜びを体験する。又、三世代にわたって、一つの物を作り上げる事により、喜びを覚える。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月22日(日)	さつま芋苗植え	鍛冶地内(北山田地区内)	42名
10月1日(土)	さつま芋堀	鍛冶地内(北山田地区内)	78名
12月18日(日)	三世代交流クリスマス会&餅つき大会	北山田交流センター	73名

◆事業の様子

☆ さつま芋堀

去年の、さつま芋苗植えは、コロナ感染症予防対策としてスタッフのみで行い地域の皆様には体験していただけませんでしたが、今年は、親子で体験することが出来ました。収穫は、生育状況や量的にも例年より不作ではありましたが、お天気にも恵まれたたくさんの親子に参加して頂くことが出来、参加した子供たちは、お父さん、お母さん達と協力し合って収穫の喜びを体験することが出来ました。



☆ 三世代交流クリスマス会&餅つき大会

コロナ感染症の影響で3年ぶりの餅つき大会となりました。子供達も大きな杵を振り上げ、つきたてのアツアツの餅は、お母さんと黄な粉やあんこ、胡麻をまぶし立派な餅に出来上がりました。



◆事業の成果と課題

さつま芋の収穫や、昔ながらの杵と臼を使っの餅つき体験により、農作業の大変さや、又、大きく生育した収穫物への喜びを感じることが出来ました。又、昔ながらの杵や臼を使っの餅つきはお母さんやお父さんと一緒に一つの物を作り上げる喜びを味わえました。

【体験交流型】

南砺市西太美地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	

◆事業の目的

様々な体験活動を行う事で子供たちの知識や経験を広める。また地域の施設を利用し、地域の大人が関わることで、世代間交流や地域に愛着を持つ子を育てる。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
11月26日(土)	おはぎ作り	西太美交流センター	25名
12月26日(月)	門松作り	西太美交流センター	37名
1月21日(土)	親子体験活動(スキー教室)	IOXアローザスキー場	56名

◆事業の様子

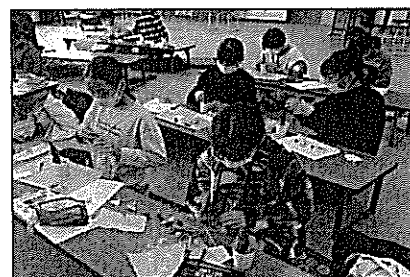
☆ おはぎ作り

小学生の親子が地元のJAひだまりの会員におはぎの作り方を教わり、地域の高齢者宅へ届けました。ほとんどの児童がおはぎ作り初体験でしたが、一生懸命もち米をつぶしたり丸めたり、小豆などを付けたりと頑張っていました。おはぎに折り紙を添えて近所の高齢者宅へ届け会話を交わしました。



☆ 門松作り

近年、一般の家庭ではあまり見られなくなった門松について、地元の講師から由来や作り方を教わりました。地域の大人や保護者が見守る中、各々工夫して飾り付けを行いました。



☆ 親子体験活動(スキー教室)

地元のスキー場でスキー教室を行いました。レベル別に班分けし保護者コーチに教わりながらスキーやスノーボードを楽しみました。昼食は保護者が作った温かい豚汁をみんなで味わいました。



◆事業の成果と課題

コロナ禍において制限を受ける中でも感染症対策を取りながら、地域の大人と関わりながら様々な体験を楽しむことができました。おはぎ作りや門松作りでは、世代間交流や伝統行事を守り伝える大切さを学びました。また、スキー教室では、地元のスキー場を利用して冬のスポーツを楽しむことで地域の良さを再認識し、地元愛が育ったように思えます。

【体験交流型】

石黒地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		

◆事業の目的

はつらつ公民館学び支援事業を通して地域住民間の交流 および 深い繋がり、そして 地域の発展・活性化促進をはかる。また、これからの高齢化地域を担う子供たちに 先人が行なってきた伝統文化を維持・継承する土壌造りが、非常に重要な支援事業と位置づけております。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
6月15日(水) 10月14日(金)	さつまいも苗植え さつまいも掘り	道の駅福光いっぷく農園	114名
8月4日, 8日, 11日	夏休みこども教室 3回開催	石黒交流センター	31名
9月30日～10月28日	絵手紙教室 3回開催	石黒交流センター	29名
12月17日(土)	しめ縄飾り作り	石黒交流センター	22名

◆事業の様子

☆ さつまいも苗植え/さつまいも掘り体験

道の駅福光農園にて どんぐり保育園 青組園児 38名を迎え、6月に苗植え。10月に保護者の皆さんにも参加を呼びかけ、園児、保護者、関係者を含め 総勢 55名で芋掘り体験/世代交流を行いました。

秋の芋掘りでは、ふさふさの葉っぱの下に さつまいもが育っていることも知り、友達と一緒に歓声を上げながらの収穫でした。

☆ 夏休みこども教室 3回開催

(8/4: 豆腐作り、8/8: スケッチ・他、8/11: ペットボトル工作・他)

コロナ禍の中での豆腐づくりになりましたが、子供たちにとっては初めての体験であり、豆腐の作り方を学ぶだけではなく、簡単に手に入る市販の豆腐と自分が手間と時間をかけて作った お豆腐の風味や濃厚な甘味の違いに感動し、皆 にっこり豊かな表情でした。

☆ しめ縄飾り作り (三世代交流催し)

伝統文化継承の一つとして身を持って体験できる しめ縄飾り作りを実施。毎年ですが、藁を捻って縄を作るのが難しく 苦労している様子が伺えましたが、水引、紙垂を取付け 思い思いのしめ縄飾りが出来上がりました。



◆事業の成果と課題

新型コロナにより 十分な活動が出来ず、未だに制約を受けながらの事業活動になっている中で、このコロナにより、伝統文化的行事が継承されなくなる(途絶えて行く)ことを危惧しています。

地域づくりとしてコロナと言って中止ではなく、何らかの感染拡大防止対策をしながら「地域団体との連携」、「世代間・地域間の交流」、「伝統文化の維持/継承」等、継続する意義を感じています。

【体験交流型】

南砺市東太美地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	

◆事業の目的

親子で取り組み、植物や自然との触れ合いを体験することで親子の親睦と自然の中の生き物の生態や自然環境を学ぶ。また、物づくりを身近に体験することで、物への大切さや愛着心を育てる。

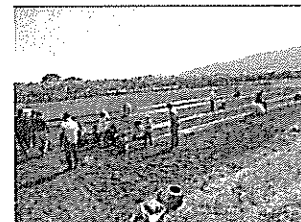
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月21日(土)	花苗植付	交流センター指定花壇	24名
5月28日(土)	さつま芋苗植付	立野原借受畑	30名
7月31日(日)	親子で陶芸教室	城端陶芸工房	25名
8月21日(日)	体験研修	上高地	24名

◆事業の様子

☆ 花苗、さつま芋苗、植付

5月21日(土)花と緑の銀行の皆さんと一緒に花苗の植え付けをし、水やりと花摘み等について学びました。5月28日(土)には小学校育成会や農協青年部、壮年会の皆さんの協力のもとさつま芋苗の植え付けをしました。



☆ 親子で陶芸教室

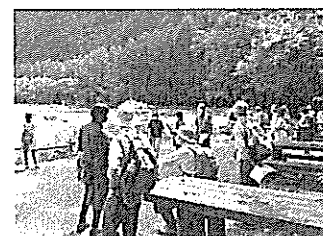
指導者から土練りでは粘土の硬さを均一にする「荒練り」と粘土の空気を抜く「菊ねり」を学びながら親子で1つの作品を作ったり、それぞれの思いの作品を作ったりしました。また、乾燥し素焼き作業を経て釉薬を掛け本焼きまでに最低1か月かかることから時間をかけて釉薬掛けにも挑戦できたらと思いました。



☆ 体験研修

8月21日(日)に上高地散策を実施しました。

新型コロナウイルス感染対策として参加者の出発までの5日間の体温測定を実施し体調を整えて臨みました。自然の雄大な地形や原生林を目の当たりにして感動し、また、草刈りをしていた地元の方から自然を守るため遊歩道脇の草刈り等に機械を使わず手作業で整えていると聞き自然保護の難しさも学びました。



◆事業の成果と課題

どの事業においても自然の大切さや環境保護についての難しさを知ることができました。

また、各種団体と親子や多世代との交流も図れました。課題としてコロナ禍に対応した取り組みを考えたいです。

【体験交流型】

北野地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	○

◆事業の目的

チビッコ太鼓教室では、地域に伝わる伝統文化の北野式年太鼓の伝承を目的に、経験や年齢で班別に練習し、成果を発表する。自然体験を目的に農協青年部北野支部の協力にて圃場でさつまいもを掘り、収穫を体験する。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月25日(月) ～8月24日(水)	チビッコ太鼓教室	北野交流センター軽体育館	289名
8月25日(木)	北野天満宮秋季例大祭奉納太鼓披露	北野交流センター軽体育館	21名
10月16日(日)	さつまいも収穫体験	北野地区圃場	28名

◆事業の様子

☆ チビッコ太鼓教室

地域に伝わる伝統文化の北野式年太鼓の伝承を目的に実施した。経験や年齢で班別に練習を重ね、子ども同士、地域の大人とのつながりが深まった。

☆ 北野天満宮秋季例大祭奉納太鼓披露

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をしながら、練習の成果を家族や地域の皆さんに披露した。

また、小学校の先生や地区外からも見に来られ、地域に伝わる文化や練習の成果を披露することができた。



☆ さつまいも収穫体験

農協青年部北野支部の協力のもと実施。さつまいもの種類、葉や茎の説明や収穫の仕方を教わった。収穫したさつまいもは家庭で味わい、食物の大切さや感謝の気持ちを持つ良い機会となった。



◆事業の成果と課題

各事業とも新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をして実施した。チビッコ太鼓教室では感染拡大の影響を受け、児童の体調不良による欠席が多かったが補習を行い仕上げる事ができた。参加児童は練習が遅れている仲間に教え、助け合いながら取り組み、その成果を保護者や地域の方に披露し達成感を得ることができた。さつまいも収穫体験では、小学生、保育園児の親子の多数の参加があり有意義なものとなった。今後も、これらの事業を継続するために各団体、保護者との連携をより深めたい。

【体験交流型】

南砺市広瀬館地域づくり協議会

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○	○	

◆事業の目的

地元の保育園児、小学生児童らを対象に、物づくり体験や自然体験を通して、親子、三世代、そして地域団体との交流を深める為。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月22日(土)	サツマイモ、里芋植え	広瀬館祖谷地内	25名
8月8日(月)	親子体験教室(ミニ行燈作り)	広瀬館交流センター	13名
10月15日(土)	サツマイモ掘り、焼き芋	広瀬館交流センター	90名
12月26日(月)	しめ縄づくり	広瀬館交流センター	13名

◆事業の様子

☆ サツマイモ植え、里芋植え、サツマイモ掘り、焼き芋

5月に圃場に肥料及びマルチ掛けを実施。当日は、親子でサツマイモ、里芋植えを行いました。子供たちは、サツマイモの苗を1本ずつ、植えて、マルチの上に苗がかからないように、苗に手を添えて一生懸命に植えました。

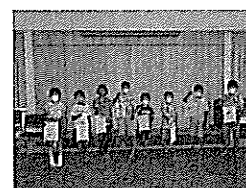


10月に、今年は4校下合同でのサツマイモ掘り&焼き芋大会を開催しました。サツマイモ掘りをした後、焚火で焼き芋を焼き、子供たちに火の大切さを体験してもらい、サツマイモのツルを利用したリース作りをしました。リースは地区の作品展に出品しました。



☆ 親子体験教室(ミニ行燈作り)

8月の子ども教室で親子でミニ行燈作りをしました。子供たちは、和紙に持参してきた本を見ながら、一生懸命に描きました。和紙を張り付けた後、完成した行燈がどんな風に灯りが灯るのかを暗い所で確認していました。後日、交流センターで作品を展示して、家族で見にきてもらいました。



☆ しめ縄づくり

12月に文化継承活動にも繋がるしめ縄づくりを体験しました。講師の先生にしめ縄づくりの由来を説明してもらい、子供たちと異世代の参加者は、まず、藁から縄をなうという作業を手ほどきしてもらったのですが、なかなか、うまく出来なくて何度も、やり直していました。昔から伝わる縄をなう事を体験が出来た事で、これからはこういった手仕事を伝えていけたら良いのではと思いました。



◆事業の成果と課題

今年も新型コロナウイルスの影響もあり、三密を避け、検温、手指消毒、マスク着用での開催事業で事業によっては、参加人数の少ない事業もありましたが、予定していた事業を開催出来ました。サツマイモ掘り、焼き芋の事業では、合同イベントに変更した事により、大勢の参加者で異世代交流の行事ができ、子供たちのいきいきとした様子が見られて、とても良かったと思います。課題としては、事業内容を野外の活動を中心としたものにすれば、もう少し参加者が多くなるのではないかと思います。

【体験交流型】

舟橋村立舟橋村公民館

3 世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○			○	○

◆事業の目的

- ・親子での農業体験をととして、野菜作りの手順や農作業の大変さを学ぶ。
- ・農業従事者の指導を受けながら活動することで、親子世代と高齢者の交流を深める。
- ・地域の自然環境や農業に対する関心を高め、ふるさとへの関心や愛着を育む。

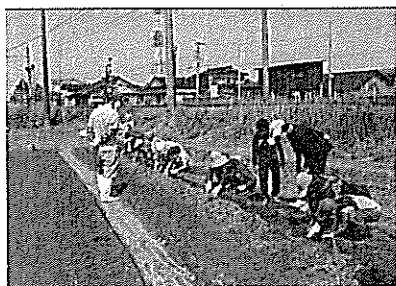
◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5 月 22 日(日)	①野菜の種まき、苗植え	地域内の畑	15 名
8 月 4 日(木)	②枝豆の収穫 ※新型コロナの影響で収穫した枝豆を配布	〃	2 名
10 月 9 日(日)	③サツマイモ掘り&焼き芋	〃	25 名
11 月 20 日(日)	④ネギの収穫	〃	15 名

◆事業の様子

☆ わくわく農業体験

地域の農業従事者の指導のもと、畑を借りて種まきや苗植え、サツマイモ掘りやネギの収穫体験を行った。天候にも恵まれて、汗をかきながら一生懸命に親子で作業に取り組む姿が見られ、大きな芋を掘り上げたりネギを収穫したりした際には、子供も大人も満足そうな笑顔が見られた。



☆ 焼き芋

収穫したサツマイモは、畑に穴を掘り、薪やもみ殻を入れた焚火の中で焼き芋にした。芋を濡れ新聞紙とアルミホイルで包み、焚火で焼き芋をするのは初めての経験という親子がほとんどで、子供も大人もとても楽しそうに活動していた。芋掘り作業で汗を流した後の焼き芋は格別だったようで、口いっぱいほおぼっておいしそうに食べていた。



◆事業の成果と課題

- ・種まきや苗植えから収穫まで一連の野菜作りを体験することで、野菜作りの手順を学ぶとともに収穫の喜びも味わうことができた。また、地域の農業従事者から野菜作りの苦勞や工夫していることを聞いた際には、自らの体験と結び付け五感を通して理解していた。
- ・広々とした畑で親子が一緒に行う農業体験を通して、普段家ではできないふれあいができてよかったという感想が聞かれた。また、畑のそばを通るたびに野菜の様子を気にかけるなど、体験やふれあいを通してふるさとへの愛着・関心を高めることができた。

【体験交流型】

上市町立宮川公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		○

◆事業の目的

伝承地の探索や身近な『ますのすし』作り体験のほか、『笹巻き』を自分で作ってみることにより、先人の知恵に触れ、地域文化の継承と学びにつなげる。同時に、地域の方々との世代間の交流を深めることを目的とする。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月24日(日)	『ますのすし』を作ってみよう 『笹巻き』の伝承地区を知ろう	ますのすしミュージアム 上市町須山地区	12名
7月28日(木)	第1回『笹巻き』を作ってみよう	宮川公民館	22名
10月29日(土)	第2回『笹巻き』を作ってみよう	宮川公民館	25名
12月8日(木)	『笹巻き』の伝承について 『笹巻き』を作って食べてみよう	宮川小学校	145名

◆事業の様子

☆『ますのすし』を作ってみよう・『笹巻き』の伝承地区を知ろう

上市町須山地区で伝承されてきた『笹巻き』とは何であるかを伝え、歴史的背景を語りながら、事業を進めた。身近な駅弁『ますのすし』の梱包にも隈笹が使われており、隈笹食文化の伝来とも関係することから、実際にますのすし作りを体験した。

☆第1回・第2回『笹巻き』を作ってみよう・『笹巻き』を作って食べてみよう

もち米の中に黒豆、金時豆、ささげ豆を入れ、隈笹を円錐状にし、米を入れスゲで縛った。スゲ縛りは独特であり、非常に難しかった。鍋に入れて1時間ほど煮込んで出来上がり。工程はここまでだが、達成感があり、成功したときは思わずガッツポーズであった。



隈笹の特徴、『笹巻き』とは何かの話を聞いた後、前もってスゲ縛りの練習をしているところ



隈笹で作った円錐状筒の中に金時豆入りもち米を詰めているところ



スゲ縛りをしている真剣な表情、うまくできるかな



出来上がり

◆事業の成果と課題

6年生は、歴史の学習が始まっているので、伝来ということにも興味津々であった。また、もち米を隈笹に詰めること、スゲで縛ることなど意外と苦労した事もあったが、難しい縛り方は、食べる人のことを考えてのことであるということを経験してもらうことができた。今後は、公民館事業に『笹巻き』作りをどのような形で位置づけるか、また、昔の人の知恵を伝えながら、誰でも作れるレシピ作りなど楽しんで作ってもらえる『笹巻き』作りとすることも今後の課題である。

【体験交流型】

入善町 飯野公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
	○		○	○

◆事業の目的

- ・異世代が一斉に集い活動することによって、世代間の交流を促すとともに、地区住民相互の交流を深める。
- ・地区にある自然環境について知識を深めることにより、郷土に対する愛情を育む。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
10月2日(日)	三世代交流会	飯野公民館	中止
11月13日(日)	親子バードウォッチング	黒部川河口等	24名

◆事業の様子

☆3世代交流会

9月23日(金)に「令和4年度飯野地区三世代交流会」実行委員会を開催し、飯野小学校長、飯野小学校PTA会長、飯野地区社会福祉協議会長、飯野地区区長会および飯野地区福寿会長と活動について協議をした。その結果、小学生は新型コロナウイルスワクチンを未接種であり、不特定多数との密な状態を避けるため、今年度も開催は見合わせることにした。

☆親子バードウォッチング

入善公民館との協業事業として、本事業を実施した。飯野小学校と入善公民館に募集チラシを配布して、参加の呼びかけを行った。飯野小学校からは15名、入善公民館からは9名参加した。

日本野鳥の会会員である笹島裕子氏を講師に迎え、独自に作成されたポケット図鑑を参考にして説明を受けた。渡り鳥の中継地である黒部川河口の植物の特性や渡り鳥の特徴や見分け方についてフィールドスコープで実際の野鳥を観察しながら説明を受けた。



◆事業の成果と課題

〈成果〉

- ・親子バードウォッチングでは、改めて自分たちが住む地区の自然の希有さに気づき、地区に対する愛情を深めることができた。

〈課題〉

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ワクチン未接種者が多数の小学校との事業は、困難であると感じた。密の状態を避けた屋外の活動であっても、以前のような多数の参加者は期待できない。
- ・福寿会との事業は、高齢者に基礎疾患のある方が多いことから、活動を断られることが多くなっている。

【体験交流型】

入善町 横山公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
			○	

◆事業の目的

自然や魚の生態について認識を深めるとともに楽しい思い出を作る

◆事業の流れ

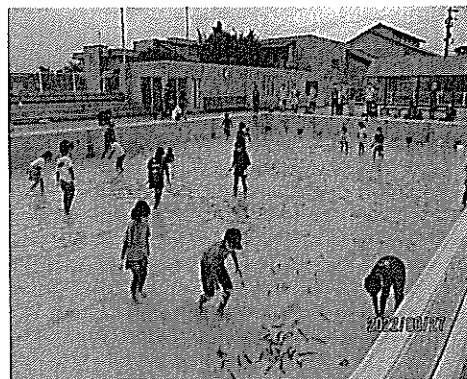
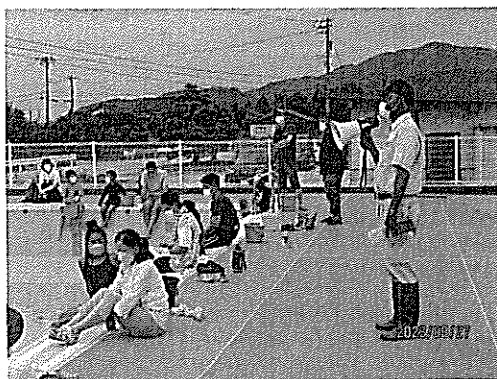
実施日	活動名	場所	参加人数
8月27日(土)	魚つかみ取り大会	桃李小学校プール	95名

◆事業の様子

☆ 魚つかみ取り大会

コロナウイルス感染防止対策を講じながら、川魚の生態についての説明を受けたり、捕まえ方のアドバイスをもらったりした後、プールに入り、イワナやニジマスなど1000匹の魚を追いかけてました。

魚の動きを理解すると、徐々につかみ取りが出来るようになり、捕獲することの楽しさを知りました。最後に料理の仕方の説明を受け、夏の楽しい思い出となりました。



◆事業の成果と課題

新型コロナウイルス感染症の影響により3年振りに実施された「魚つかみ取り大会」は、感染防止対策として人数制限を行いながらも、多くの参加者が集まり大盛況で終了しました。

初めの頃はなかなか捕まえる事が出来なかった児童も、上手に捕まえることができた時の顔が凄く輝いて見えました。

【体験交流型】

入善町 上原公民館

3世代交流	各種団体との連携	文化継承活動	自然体験活動	ふるさとの学び
○	○	○		○

◆事業の目的

三世代・地域の方々との交流を通して絆を深めるとともに、ふるさとの誇りと愛着を育む。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
10月23日(日)	ウォークベースボール大会	上青小学校	65名
11月12日(土)	そば打ち教室	上原公民館	15名
12月3日(土)	大型紙芝居とミニコンサート	上原公民館	60名
12月17日(土)	しめ飾り教室	上原公民館	15名

◆事業の様子

☆ ウォークベースボール大会

新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となりました。最初は調子が出ないこともありましたが後半は白熱した試合となりました。



☆ そば打ち教室

そば打ち道場のみなさんの協力を得て実施しました。子供よりお父さんが張り切っていました。出来たそばは、細い太いがありましたが、自分たちの打ったそばは、格別で美味しく、満足顔となりました。



☆ 大型紙芝居とミニコンサート

民話を語る「青い鳥の会」の紙芝居とシンガーの英樹さんとのコラボを実施しました。地元の民話や英樹さんの歌や演奏を楽しみました。地区の介護施設に入所されている方の参加が多くあり、交流を深めることができました。



☆ しめ飾り教室

講師の先生の指導の下、新年に飾るためのしめ飾りを作り上げました。子供は縄をなうのがなかなかうまくいかず、お父さんの手ほどきで完成させました。



◆事業の成果と課題

「そば打ち体験」や「紙芝居」、「しめ飾り作り体験」など、三世代・地域の方々、親子のふれあいなど絆を深めることができました。また、今年も「紙芝居」に地区の介護施設に入所されているおじいちゃん、おばあちゃんがあり、交流が深まりました。今後この様に地区内の介護施設の方々へも参加の声掛けを進めていきたいです。